

東京 Rape Crisis Center

強姦救援センター
ニュース60
No.米ネバダ州 RCC スタッフ シズエ・ヒルさんに聞く
電話相談を受けて 学生の皆さんへのメッセージ
スタッフの目/トレーニング、昔と今

03-3207-3692

相談時間 水曜：午後6時～9時
土曜：午後3時～6時

私たちは強姦を次のように定義します

1. 強姦は、女性に対する支配・征服・所有が性行為という形をとった暴力です。
2. 強姦は、女性が望まない全ての性行為です。

電話相談を受けて

学生の皆さんのメッセージ

この数年、インターネットでセンターを知ったという女子学生の方からの問い合わせが増えました。学校の課題としてこのことを調べることになったのと、性被害に関連する講義を受け、同じ女性として他人事とは思えず、関心を持ったなどの理由で質問が寄せられます。それらの回答に当たる内容は、センターの本「レイプ・クライシス」やニュース紙面で述べてありますので、まず始めにそちらに目を通して頂くのが一番早いと思います。

学生の皆さんが、強姦を始めとする性暴力の問題に関心を持ち、女性として被害を身近に意識し、考えることは大歓迎ですし、とても大事なことです。考えれば必ず疑問が湧いてくるはずですが、なぜ被害は起きるのか、なぜ被害を信じてもらえないのか、なぜ被害者は正當な扱いや十分なサポートが受けられないのか、問題は山ほどあります。ひとつ注意してほしいことは、性暴力の問題は、女性蔑視を根に持つ問題だということです。そのため、他の犯罪被害と同じに考えても、前述の「なぜ」の答はわかりません。

女性蔑視と男優位思想は一体のものです。女性は男より一段劣った存在と

され、それを自然の道理のようにして社会が組立てられています。この社会では、女性の身体は彼女自身のものではなく、支配者である自分のものと男は思っているわけですから、セックスは支配の一環であり強姦はそのバリエーションです。被害が被害として社会に通じない理由はここにあります。

性暴力は全ての女性に向けられた攻撃です。女性たちが自分の問題として向き合うことなしには、この問題は解決しません。しかし、それは実際は容易なことではないのです。自分が蔑視され差別を受けているという現実を認識しなければならぬため、なるべくならそこは見たくないからです。そして多くの場合、被害にあった気の毒な誰かの問題として押し込み、自分はその外側から問題を論じ、助ける人のポジションを取ろうとします。そうである限り加害者たちは安泰でいられます。

もし皆さんが同じ女性として、本当にこの問題を考えようとするなら、教科書に書いてあることや世間の言うことをかき分けて、その下にある問題の本質にせまらなくてはなりません。女性たちがその気になりさえすれば、それはいつでも可能なことです。

電話数統計

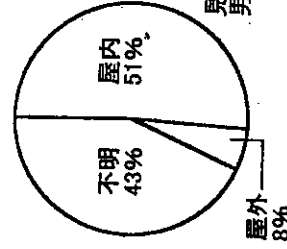
2005年7月～10月

電話総数151件（うち無言48件）

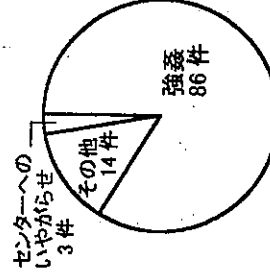
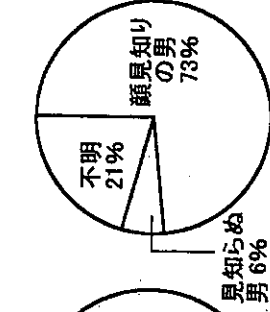
統計の説明

- 統計の中で、「屋内」というのは、住宅、学校、ホテル、職場など。「屋外」とは、路上、乗り物、公園など。
- 同じ被害者からの複数の相談も数に入れています。
- 「不明」とは、相談者が話さなかった場合です。

被害場所



加害者との関係



ネバダ州 The Rape Crisis Center

スタッフ シズエ・ヒルさんに聞く

昨年11月、日本に帰国中の、ネバダ州 The Rape Crisis Center のスタッフ、シズエ・ヒルさんとお会いする機会を得ました。ネバダ州南部全域を担当して活動する The Rape Crisis Center は、24時間のホットラインを設ける3か所のオフィスを持ち、彼女はそのうちのひとつ、ラスベガスにあるセンターに勤務しています。ここには彼女を含め7名の有給スタッフがいます。現在、月におよそ80件ほどの相談があるそうです。

有給スタッフの他にも約50人のボランティアスタッフが登録されており、活動を共にしています。ボランティアスタッフは、18才以上の男女で、研修終了後最低6ヶ月以上は活動することが条件で募集され、書類選考と面接を経たのち、50時間のトレーニングを受けます。

ホットラインは、迅速で被害者に密着した援助が提供されます。スタッフはそれぞれ携帯電話を持ち、24時間当番制で電話を受けます。緊急援助の連絡が入った場合、病院などに駆けつけ、警察や性暴力の専門看護師や医師たちと共に被害者の支援をします。緊急の

カウンセリングや事情聴取、証拠集め（これは被害者の同意を得て採取や記録をし、一定期間保管。本人が法的に訴えないと決めたときは焼却する、必要に応じてシェルターへの案内、食料、着替え用衣類の提供もします。さらには日常生活への必要な援助、裁判所への付き添い、法的に訴えるときの支援、医療的な支援（アドバイス）なども行います。またアメリカはカウンセリング費用の一部を市、州、合衆国が補助する制度があり、一定の時間無料で受けるために、必要な説明をすることも役割のひとつです。

その他の活動として、地域の啓発活動、講演、ホームページでの情報提供、専門家の育成、裁判傍聴、文献の貸し出し、実習生の受け入れ、他の専門職への協力、被害者のグループ・ワーク支援などがあります。シズエさんが今一番に取り組んでいる活動がこのグループ・ワーク支援です。内容はセルフ・ヘルプ・グループにも似ていますが、シズエさんのような専門家のファシリテーターがひとり加わるということが大きな違いであり、有効な点です。会は、決められた曜日・時間帯で、いつでも

自由に参加が可能で、常時10名くらいの方が出席しているそうです。

かなりの人数の有給職員を抱える同センターの活動資金は、会員の会費の他に、多数の各種団体からの援助が大きな役割を果たしています。中でもユニークなのは Marriage License Fund です。マリッジ・ライセンス、つまり結婚証明書ですが、実はネバダ州は結婚が容易なことで有名で、多くの人がここにきて結婚証明書をもらっていくそうです。その発行手数料が25ドルで、そのうちの5ドルが同センターに入るという約束になっています。また、市からは年間1ドル（！）でオフィスに使う建物が提供されています。活動に対する社会的援助体制の日本との大きな落差を痛感させられます。

* * *

◆シズエ・ヒルさんの勤務するラスベ

The Rape Crisis Center
Las Vegas
Hotline: 702-366-1640
Office: 702-385-2153
Address:
741 Veteran's Memorial
Drive Las Vegas, Nevada
89101

ラスベガスのセ
ンター。セ
ンターには
日本人旅
行者から
入る電話
も彼が
繋ぐ。

◆左ページは、同センター発行の十代に向けたリーフレット。

The Rape Crisis Center の他のリーフレットより

■望まないSEXを強要されたときは

NOと言ったらその理由を相手に説明する必要はない。自分自身でもその理由を考える必要はない。イヤなものはいやでOK！自分自身でもはつきりしなかったり、戸惑う場合にはNOと言いなさい。あとから考えればすむこと。あなたは、相手が知り合いでも、たとえ好きな人でもNOと言える。

■デートして相手が食事やコンサート代を支払い、そのあとSEXをせまったとき

相手「じらすなよ、君には貸しがあるだろう」

あなた「いったい何の借りがあるの？どこからそんな話になるの。借りているとしたら食事代とコンサート代だけだね」と言い、さっさと帰りたいたいと言う。

デートレイプ 自分を守るための10か条

知っている人があなたを傷つけるなんて考えただけでも恐ろしいわね。デートレイプはあなたのせいでおきるんじゃない。だれぞそういうことはいったってあるわよ。それを防ぐためにできることがある。

1. あなたはいつだってNO!と言う権利がある

例えば

- ・ キスをしたり抱き合っているさなかでも
- ・ 一緒に飲んでいても
- ・ 以前にSEXしたことがあっても
- ・ 一度はOKしたけど途中で気持ちが変わっても
- ・ 相手が「おごってやってたじゃないか」と言っても
- ・ 相手を怒らせるかもしれないと思っても

2. 用心深くし、直感を信じること

- ・ あまりよく知らない人や居心地の悪い人と二人きりにならない
- ・ 自分の直感を信じること

3. さまざまな強制に気づくこと

強姦とはSEXを強要すること

強制とは

- ・ いやだというのにやめない
- ・ 痛い目にあわせると脅迫する
- ・ はが肌絞めにする
- ・ ナイフやピストルを見せる
- ・ 酔って意識がないときにSEXをする
- ・ もっとひどいことになる脅迫する
- ・ 「言うことを聞いてくれないなら自殺する」などと言う

4. 自分の態度をはっきりすること

- ・ これ以上はイヤだと思っただけはつきりとNO!と言う
- ・ 相手の気持ちを思いやる必要はない。あなたがはっきりNO!と言わなければ、相手はOKだと思ってしまう
- ・ たたえ相手がNOを受け入れなくても、それはあなたのせいじゃないということを忘れないで

5. 自分の状況がわかっていていること

- ・ わけのわからない状況におちいらないこと

- ・ アルコールやドラッグを避けること
- ・ 身の安全が怪しい(やばい)と感じたときは、家族や信頼できる友人に迎えにきてもらう
- ・ バス代やタクシー代をいつも持っていること
- ・ 強姦されるより、トラブルになるほうがましだということをお忘れしないで

6. 危険なサインを見逃さないこと

- ・ ふだんからあなたの言うことを聞かない相手はSEXにおいても同じかもしれない
- ・ 馴れ馴れしく近づいてきたり、ジロジロ見たりする人は、あなたの気持ちを無視する
- ・ 相手が困っているのを見て喜ぶような人は問題あり。気をつけて

7. NOと言えないような状況の場合

- ・ NOと言えれば更に状況が悪くなると思ったときは、トイレにいくと言って電話をかけるにいく
- ・ 自分を守るためにウソをつくのは問題ない

8. 相手がNOを受け付けないときは

- ・ 大声でもう一度NOと言うこと
- ・ 「やめて。これは強姦よ」と言う

9. 抵抗が有効かどうか判断すること

- ・ 落ち着いて何をすべきかを決める
- ・ 説得してみるか、相手の気持ちをそらして逃げる
- ・ できればやり返す。強く押し返す
- ・ 大声をあげて人がいるところへ逃げる
- ・ ときにはやり返すのが危険でおとしなく受け入れたとしても、あなたのせいではない

10. 助けを求めよう

- ・ 被害にあいそうになつたりあつたら、できるだけ早く助けを求めましょう。友人や家族に話しましょう。レイプクライシスセンターに連絡するか警察を呼びましょう。あるいは被害者のためのホットラインに電話しましょう
- ・ その人が耳を貸さなくても、あなたが悪いのではないことを忘れないで!

「トレーニングを終えて」

センターのトレーニングを受け始めたとき、犯罪被害者支援に関心を持っていた私は、性犯罪被害について特別に関心があったわけではなく、手始めに性犯罪から取り組んでみるかと考えていた。つまり、他の犯罪と性犯罪を同質のものとして並列して考えていた。しかし、トレーニングを受けて、性犯罪は強制異性愛社会を基盤とした、私たち女性全員に対する犯罪であると知り、この問題に立ち向かっていくには自分の考えが根本からズレていることを痛感した。生まれてから20数年間、女性への理不尽な仕打ちを、男に都合のよい論理で築かれた社会の中で、自分が何ひとつ疑わずに受け入れていたことがよくわかった。

トレーニングを終えた今、センターの電話相談について、犯罪被害者支援の一種であるから取り組みたいのではなく、同じ女性の被害を見逃すことができないから、電話の向こうの女性の被害は私の被害であるから、取り組んでいきたいと考えている。

原田

スタッフの目 トレーニング、昔と今

2006・1

年に一度約6ヶ月間をかけて実施するトレーニングは、センターで一緒に活動するスタッフの養成が目的である。センターの活動の大きな柱の一つは、被害にあった女性を、同じ女性の立場で支援するための電話相談である。そしてもう一つは、強姦の問題に対する社会啓発がある。強姦や性暴力への偏見をなくし、正しい理解を浸透させること、また、被害者が被害者として正当に扱われ、更には、被害が起きない社会へと前進させることである。

1983年の設立以来、トレーニングはほぼ毎年実施されてきたが、この数年の間に、参加者の意識に変化を感じることが多くなった。その昔、トレーニングの参加者は、ひとりひとりの差はあっても、強姦の問題について考えようというベースはどこかに持っていた。最近では、関心の中心が、強姦の問題というよりも、電話相談員という立場に着目し、困っている人を助けてあげたいという動機で参加してくる人が増えている。また、自分は被害経験があるから、同じ被害者の気持ちにはよくわかるので、そういう人の役に立ちたいという声もある。困っている

人を助けたり役に立つことは大事なことで、だが、なぜ困っている人が後をたないのかの大元の問題に無関心では、方向を間違えてしまう。

当初の動機が何であつても、それはかまわない。トレーニングに足を運ぶうちに、違いに気づき、強姦の問題を自分のことに引き寄せて考えられるようになれば、頭はほぐれて自然と問題に向き合うことができる。ところが、実際はそれが相当難しいようである。しかし、どういった関心からであつても、せつかく居合わせた時間である。できるなら有効なものにして欲しい。まず、「困っている人を助けてあげたい」というのは、どこか上からの視線で、自分が気分よくなるためにその人を利用しようとしているのではないかという問いを、一度真摯に自分に向けてみて欲しい。被害にあった者は、被害者の気持ちがよくわかるという説は、ひとまず冷静に検証してみたい。被害が、その個人の「私の被害」として囲われている限り、他の女性の被害は別の被害なのである。これら意識の隔たりに気づいてもらうことも、近年のトレーニングのひとつの課題になりつつある。

(A)

「センターより」

- 賛助会費・カンベの領収証は、振込み用紙の控えをこれにかえさせて頂きますので、ご一承ください。
- 郵便物の差出人が強姦救援センターでないほうが良い方は、その旨お知らせください。個人名でお送りします。
- 返信希望の場合は、返信用切手を同封して下さるようお願いいたします。
- 皆様のご意見、ご感想の投稿をお待ちしています。

■募集しています

○賛助会員

年会費1口3000円で何口でも結構です。会員の方にはニュースレター等をお送りします。

○アドバイザー（女性）

弁護士、婦人科医師で、センターの活動に協力して下さる方、ご連絡をお待ちしています。なお、弁護士は加害者の弁護をしないことが条件です。

○スタッフ（女性の電話相談員）

約半年間のトレーニングを受ける必要があります。

編集後記

ニュース今号も前回に続いて一ヶ月遅れの発行となりました。お詫言いたします。本号は予定どおり、4月15日にきっちり発行できるようにスケジュールを組んでいきたいと思っています！

吉田